



この『菜の花エコプロジェクト』は、衛生自治会の役員の方々が全国一の作付面積(百五十ヘクタール)を誇る青森県の横浜町へ視察に行き、菜種油の人気の高さや利用価値について学び、資源循環型社会の構築に結びつくと、「春はネ、春は大崎、菜の花ざかり」と大崎小唄にも唄われた懐かしい風景を復活させようと思いついたことから始まりました。

現在、菜の花は、衛生自治会会員のほか、このプロジェクトの趣旨に賛同された農家の協力を得て、食用油に向いているダイリニューナタネとキサキノナタネを七ヘクタールで栽培しています。この作付面積は、青森県の横浜町に次ぐ広さです。

大崎町と衛生自治会では、この菜の花からできた菜種油を町民のみならずに使っていただき、その菜種油の廃油を各家庭から回収、車の燃料へと転換していく計画です。

資源循環型社会を目指して、今後は更に作付面積を増やしていく予定です。この『菜の花エコプロジェクト』をみなさんにご理解いただき、一人でも多くの方が参加していただけることを望んでいます。



菜の花エコ・プロジェクトの資源循環サイクル

